

②耐圧強化ベント

<想定している事故概要>

万一、原子炉の蒸気がS/Cで蒸気が凝縮（冷却）できず、PCVの除熱に失敗した場合、PCVの圧力が上昇する可能性がある。AM策として、PCVの過圧を防止するためにPCVから排気筒に至るベントラインが整備されている。

PCVの圧力が最高使用圧力を超えて上昇していくことを確認した上で、本設備を利用してPCVからの除熱を行うものである。（今回の事象では、発電所長（発電所緊急時対策本部長）の指示により実施した。）

当該事故における事故時運転操作手順書の前提条件の概要としては、以下の通りである。

- RHRの復旧の見通しが無い場合
- PCV圧力が最高使用圧力を超え、発電所緊急時対策本部長がベント操作を許可した場合
- 中操の操作用交流電源が正常なこと

<対象となる事故時運転操作手順書>

- 事故時運転操作手順書（シビアアクシデント）
- 2. AM設備操作手順書（2-3不活性ガス系（耐圧強化ベント））

<対象となる操作>

中操での操作用電源が喪失したことにより、中操からのベントラインの構成ができなかったものの、「不活性ガス系（耐圧強化ベント）」手順書を参考として、現場で手動にてライン構成を行った。

5. 今回の事故時に実際に実施した運転操作の内容および各操作に対する事故時運転操作手順書における手順の適用状況

「3. 事象の概要（操作関連）」を踏まえて、今回の事故対応において使用または参考としたと思われる「事故時運転操作手順書」を「4. 事故時運転操作手順書において想定している事故概要および前提条件の概要」において選定した。また、その「4.」において選定した手順書の前提条件と実際のプラント状況とを比較し、事故時運転操作手順書毎に使用または参考にした範囲（止める・冷やす・閉じこめる等の重要な操作＝原子炉系の操作）のさらに絞り込みを行った。

今回の事故時におけるイベント・操作に対して、以下に示す事故時運転操作手順書毎の絞り込んだ範囲を参照し、その事故時運転操作手順書における手順の適用状況を「6. 添付資料（1）」にとりまとめた。

（1）手順書毎の絞り込んだ範囲

①地震発生～全交流電源喪失まで

「事故時運転操作手順書（事象ベース）：原子炉スクラム事故（B）主蒸気隔離弁閉」
・止める・冷やす・閉じこめる等の重要な操作

②全交流電源喪失以降

「事故時運転操作手順書（事象ベース）：外部系統事故12-4 全交流電源喪失」
・冷やす等の重要な操作、直流電源容量確保のため負荷の切り離し操作

「事故時運転操作手順書（シビアクシデント）：AM設備操作手順書」

- ・ 2-2 消火系「FP」のライン構成
- ・ 2-3 不活性ガス系（耐圧強化ベント）のうち「S/Cベント」のライン構成

(2) 操作状況の確認結果

今回の事故対応において、手順をチェックしたエビデンスがないことから、事象に最も類似している事故時運転操作手順書と実際の操作内容を照らし合わせしたところ、現時点では現場の状況からして、操作状況は問題がなかったと考えられる。

以 上